

川を活かしたまちづくり ～市民・観光客が親しめる河川敷の整備～

旭川市総合政策部まちづくり推進課 主幹 熊谷 好規

北海道のほぼ中央に位置する旭川市は、雄大な大雪の山々に抱かれた明瞭な四季が織りなす自然豊かなまちである。人口35万人の北海道第2の都市として、教育や医療など様々な都市機能が広く整備されている一方、冷涼な気候や交通の要衝といった地理的条件を活かした良質な米やそばなどで知られる農業をはじめ、食料品、家具、木工などの製造業や、卸・小売業などの多様な産業を有し、集積された北海道の拠点都市である。

市内には、国内外から大きな注目を集めている旭山動物園をはじめ、全国区となった旭川ラーメンや国内有数の雪質を誇るスキー場などの多くの観光資源を有し、さらに、国際定期便の就航などを背景に、近年、国内外から多くの観光客が訪れている。

このように、当市は、恵まれた自然の豊かさを感じながら、旭川らしい文化や産業などを大切に育んできた活力あふれるまちである。

当市は、大雪山系を源流にもつ石狩川、牛朱別川、忠別川、美瑛川の四大河川をはじめ、大小合わせて160を超える河川が市内を流れる「川のまち」である。そのため、市民はとて身近に川の自然と触れ合うことができ、川に親しみを抱いている。

石狩川河川敷では、北海道を代表する冬のイベントで毎年百万人の人が訪れる「旭川冬まつり」をはじめ、花火大会やマラソン大会など、様々なイベントが四季を通じて数多く開催されている。



冬まつり（石狩川河川敷）



冬まつり（石狩川河川敷）

その他の河川敷も、サイクリングロードやウォーキング、自然観察会、さらに、パークゴルフなどに活用されているほか、自転車・徒歩による通勤・通学など日常的な利用が盛んに行われている。



リベラインパーク（石狩川河川敷）

さらに、日常空間の一部として河川空間を有効活用していくことが重要であるとの考えから、健常者だけでなく、車椅子や高齢者にも気軽に河川敷を利用できるよう「福祉の川づくり」が市中心部で進められており、河川敷地内には、手すりやスロープのほか、噴水池やフラワーガーデンなどの施設が整備され、川の持つ癒し・憩いの効果を最大限に活用し、医療・福祉活動の場、人々の交流の場としての空間を創出している。



「福祉の川づくり」

また、新しいまちづくりとして、現在、JR旭川駅周辺において、土地区画整理事業、鉄道高架事業、街路事業、河川空間整備事業を主要事業とする「北彩都あさひかわ」整備を平成26年度の完成を目指し進めている。この整備コンセプトについても川の魅力を最大限に活用した「都心オアシスの形成」であ

り、川の織りなす姿が全ての空間形成の原点となっている。

河川空間としての自然特性を活かした遊歩道の整備、さらに、霞堤を活用した大池の整備など、川との出会いがより印象深い空間の形成に努めている。平成23年にグランドオープンした新しい旭川駅は、忠別川に面する「川に接する駅」であり、自然豊かな河川空間と多くの人々が賑わう買物公園を結ぶ魅力的な駅である。

また、この「北彩都あさひかわ地区」においては、都心部に残された豊かな河川の自然環境を活かし、市民だけではなく観光客も楽しめるガーデンが平成26年度に完成する予定となっている。



「北彩都あさひかわ」整備状況（河川：忠別川）

市民の日常生活の舞台として中心地に、くつろぎ空間をつくりだすことによって、生活に潤いをもたらし、雄大な自然環境や北国旭川の気候で育った植物や農産物などに身近に触れあえ、楽しむことができるガーデンとなる。忠別川の大きな景観を活かし、植生など河川空間の要素をガーデンに持ち込むことで、まさに、川を活かし、川を楽しむガーデンとなっている。



北彩都ガーデン（忠別川河川敷）



北彩都ガーデン（忠別川河川敷）

現在、全国的に有名になった旭山動物園効果で、当市には多くの観光客が訪れているが、これらの観光客は、必ずしも中心部の賑わいには結びついていない。中心市街地の歩行者通行量などの数値は、

二十年前の概ね半分程度に減少している。

そこで当市では、中心市街地の活性化には、中心部の観光都市機能を強化する必要があるとの理由で、水辺と一体となったまちづくりの視点から、石狩川と牛朱別川を中心に、隣接する常磐公園や美術館、公会堂、野外彫刻などの既存の文化芸術的な地域資源で囲まれた区域を「文化芸術ゾーン」として位置づけ、その魅力を高めるとともに、これら区域と中心部や他の観光資源を緑道や街路樹、さらに彫刻などを質の高い動線でネットワーク化し、市民や観光客が日常的に文化芸術にふれあえる場を創出ししている。

この「文化芸術ゾーン」の中心に位置する常磐公園は、樹木の緑につつまれて彫刻が立ち並び、心豊かな文化を育む芸術の香り高い市民に愛されている場所である。

さらに、石狩川と牛朱別川の合流点には、北海道遺産にも登録されている旭川のシンボル「旭橋」が架橋されており、大雪山連峰を背景に、石狩川に架かる旭橋の姿は最も旭川らしい景色として、当市の重要な観光資源となっている。



常磐公園と一体となった水辺利用（石狩川河川敷）

そして、これらの計画の実施には、「かわまちづくり」制度を活用している。

当市の「かわまちづくり」計画では、石狩川築堤の緩傾斜化を図り、常磐公園と一体となった水辺利用を可能とするとともに、河川敷を文化芸術などに関わるイベント空間や、来訪者や観光バス等の駐車スペースなどに活用できるよう整備するほか、河川敷へのアクセス道路など観光都市機能を高める空間整備を行うものである。

このように、当市では、貴重な地域資源であり、市民共通の公共財産である川の魅力を最大限に活用することが、まちづくりを進める上で非常に重要なことであると考えている。

川には、人々の憩い・交流の場としての機能があり、都心のオアシスとして心の癒しの空間としての機能がある。今後も、「川のまち旭川」の特性を活かし、豊かな自然の輝きと都市の調和を大切に、次の世代に自信を持って引き継げる魅力的なまちづくりを進めていきたいと考えている。